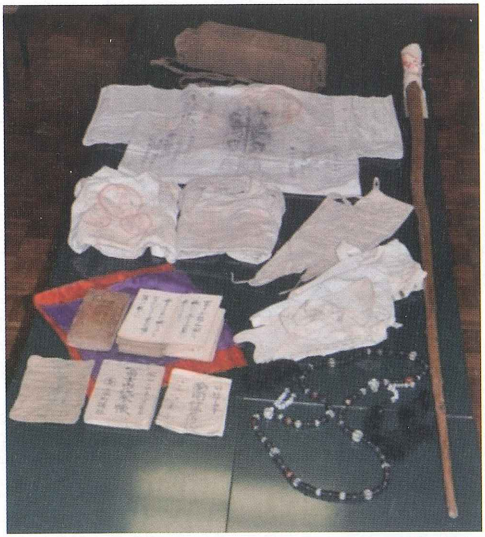
井草八幡宮富士講燈籠並びに丸を講資料

[指定年月日] 平成二三年二月九日
[種別] 有形民俗文化財（信仰）
[名称] 井草八幡宮富士講燈籠並びに丸を講資料
[点数] 二一点
[所有者等] 井草八幡宮
[所在地等] 善福寺一―三三―一



有形民俗文化財（信仰）

井草八幡宮富士講燈籠並びに丸を講資料

井草八幡宮富士講燈籠並びに丸を講資料は、井草八幡宮周辺地域を中心に組織された丸を講という富士講に関する資料である。

富士講燈籠二基は、井草八幡宮と浅間神社に奉納されたもので、奉献当時から昭和初期までは社殿前にあったが、現在は北参道と東参道との合流地点に設置されている。東参道から見て向かって左側の燈籠銘文には、元禄七年（一六九四）に造立された旧燈籠を文政元年（一八一八）に再建したとあり、右側の燈籠には文政六年（一八二三）の銘がある。左燈籠には、上・下井草村のほか、上荻窪村（杉並区）、上・下石神井村（練馬区）、保谷村、田無村（西東京市）、成子町、内藤新宿（新宿区）など広範囲にわたる寄進者一〇一名の名が刻まれている。右燈籠は、上井草村の先達本橋勝三郎の富士登山三三年の記念ともなっている。なお、丸を講が定宿としていた富士吉田口（北口）の御師槇田家にも、同年代で、ほぼ同じ内容が刻まれた石造物二基がある。

丸を講資料は、丸を講の一員であった金子氏から平成一二年（二〇〇〇）五月に井草八幡宮に寄贈された装束など一九点の資料で、富士山を登拝する際の独特の装束、御身抜箱に収められた御三幅といわれる掛軸のほか、明治後期から昭和初期の登拝記録により、代参者や御師槇田家に宿泊した富士山登拝の行程、その費用などを知ることができる。

本資料は、富士講に関する資料が少ない当区において、富士講の信仰、講組織、講組織をめぐる社会的関係等を知るための貴重な民俗的資料であり、さらに江戸近郊農村における富士講の展開を知るためのてがかりとしても貴重なものである。

【文化財所在地】